

第1次

第1時

本時の
目標

本単元での学びのポイントを捉えて学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 本時のめあてを設定する。 2 範読を聞く。 3 P 212・214から具体的な学習計画を立てる。 4 「考える」とは、というテーマで自分の考えを書く。 5 次時の学習活動を確認する。	今日は、この単元で、どのようなことを考え、どのような力をつけていくのか、教科書に書かれていることを基に学習計画を立てましょう。 ○課題解決のプロセスを意識させる。 それぞれの文章の大体の内容をつかみましょう。 単元の目標を捉えて、書きましょう。 学習のポイントを捉えて、書きましょう。 ○これまで何に着眼して論理的な文章を読んできたかを振り返り、これからの学習にいかすようにする。 自分の経験を基に「考える」とはどういうことか考えをまとめて、自由に書きましょう。 次の時間は何をしますか。 ○学習計画を基に児童へ問いかける。	単元の目標 三つの文章を読み、友達と伝え合うことを通して、自分にとって「考える」とはどういうことを深める。 学習のポイント ・筆者の主張は ・それぞれの筆者は、「考える」ことをどのようにとらえているのか ・それぞれの文章の特徴、工夫点は ・筆者の論の展開のしかたや、表現のしかた（指示語、接続語、段落と段落の関係、組み立て方） ・文章を読んで特に印象に残ったことと、その理由 ・自分の考えとの共通点や異なる点 「考える」とは ・「考える」とはどういうことか、自分の考えをまとめて書く。 「考えることとなやむこと」を読み、筆者の主張や工夫点、自分が感じたこと、考えたことなどをまとめる。

第2次

第2時

本時の
目標

「考えることとなやむこと」を読み、筆者の主張や筆者の工夫点を捉えて、自分の気づきや考えをまとめることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 本時のめあてを設定する。 2 どのようなことを意識しながら読むか、読みの視点を明確にする。 3 「考えることとなやむこと」を読んで気づいたことや考えたことをまとめて書く。 4 小グループで意見交流をする。 5 振り返りを書く。 6 次時の学習活動を確認する。	学習計画を基に「学習のめあて」を立てましょう。 「考えることとなやむこと」を読みます。どのようなことを意識しながら読みますか。 ○教材を読む前にP 212・213から読みの視点を確認する。 読みの視点を意識しながら鴻上尚史さんの文章を読みましょう。そして、気づいたことや考えたことをまとめて書きましょう。 ○読みの視点を基に気づいたことや考えたことを書くように声をかけるとよい。 筆者の主張や表現の工夫・文章全体の構成など、交流のポイントを確認してから自分の気づきや考えを交流しましょう。 次の時間は何をしますか。 ○学習計画を基に児童へ問いかける。	学習のめあて 「考えることとなやむこと」を読み、筆者の主張や筆者の工夫点をとらえて、自分の気づきや考えをまとめよう。 読みの視点 ※問いをもちながら読む。 - 筆者の主張は？ ・段落と段落の関係は？ - 表現などの工夫は？ ・文章全体の構成の工夫は？ - 読んで感じたこと、思ったこと、考えたこと 読んで気づいたことや考えたこと 【主張】何が問題なのかを、箇条書きにする。そうすれば、問題を解決するためにやるべきことが、はっきりと見えてくる。 - キーワードは、「考える」「なやむ」。 「考えること」と「なやむこと」のちがいを述べている。 - 鴻上さんのエピソードから「あなたはどうかだろう。」と問いかけるという構成の工夫。 - 鴻上さんにとって「考える」とは。 「例えば」↓分かりやすく説明するための工夫。 【友達との伝え合い活動】 ※ものの見方・考え方を広げるよう意識する。 次の時間は、「考えることを考え続ける」を読んで考える。

第2次

第3時

本時の
目標

「考えることを考え続ける」を読み、筆者の主張や筆者の工夫点を捉えて、自分の気づきや考えをまとめることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 本時のめあてを設定する。 2 どのようなことを意識しながら読むか、読みの視点を明確にする。 3 「考えることを考え続ける」を読んで気づいたことや考えたことをまとめて書く。 4 小グループで意見交流をする。 5 振り返りを書く。 6 次時の学習活動を確認する。	学習計画を基に「学習のめあて」を立てましょう。 「考えることを考え続ける」を読みます。どのようなことを意識しながら読みますか。 ○前時を振り返り、読みの視点を確認する。 ○「なぜ筆者は、——？」という問いを常にもちながら読むことで、論理的な思考力・判断力・表現力を磨く。 読みの視点を意識しながら石黒浩さんの文章を読みましょう。そして、気づいたことや考えたことをまとめて書きましょう。 ○読みの視点を基に気づいたことや考えたことを書くように声をかけるとよい。 筆者の主張や表現の工夫・文章全体の構成など、交流のポイントを確認してから自分の気づきや考えを交流しましょう。 次の時間は何をしますか。 ○学習計画を基に児童へ問いかける。	学習のめあて 「考えることを考え続ける」を読み、筆者の主張や筆者の工夫点をとらえて、自分の気づきや考えをまとめよう。 読みの視点 ※問いをもちながら読む。 - 筆者の主張は？ ・段落と段落の関係は？ - 表現などの工夫は？ ・文章全体の構成の工夫は？ - 読んで感じたこと、思ったこと、考えたこと 読んで気づいたことや考えたこと 【主張】「考える」とは何かという難しい問題について、考え続けないといけない。 - キーワードは、「考える」「気持ち」「ロボット」「人間」。 「そのためには」「しかし」「だから」文と文の関係。 - ロボットと人間の比較。 - 石黒さんにとって「考える」とは。 【友達との伝え合い活動】 ※ものの見方・考え方を広げるよう意識する。 次の時間は、「考える人の行動が世界を変える」を読んで考える。

第2次

第4時

本時の
目標

「考える人の行動が世界を変える」を読み、筆者の主張や筆者の工夫点を捉えて、自分の気づきや考えをまとめることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 本時のめあてを設定する。 2 どのようなことを意識しながら読むか、読みの視点を明確にする。 3 「考える人の行動が世界を変える」を読んで気づいたことや考えたことをまとめて書く。 4 小グループで意見交流をする。 5 振り返りを書く。 6 次時の学習活動を認める。	学習計画を基に「学習のめあて」を立てましょう。 「考える人の行動が世界を変える」を読みます。どのようなことを意識しながら読みますか。 ○これまでの読みの視点を確認する。 ○「なぜ筆者は、——？」という問いを常にもちながら読むことで、論理的な思考力・判断力・表現力を磨く。 読みの視点を意識しながら中満泉さんの文章を読みましょう。そして、気づいたことや考えたことをまとめて書きましょう。 ○読みの視点を基に気づいたことや考えたことを書くように声をかけるとよい。 筆者の主張や表現の工夫・文章全体の構成など、交流のポイントを確認してから自分の気づきや考えを交流しましょう。 次の時間は何をしますか。 ○学習計画を基に児童へ問いかける。	学習のめあて 「考える人の行動が世界を変える」を読み、筆者の主張や筆者の工夫点をとらえて、自分の気づきや考えをまとめよう。 読みの視点 ※問いをもちながら読む。 - 筆者の主張は？ ・段落と段落の関係は？ - 表現などの工夫は？ ・文章全体の構成の工夫は？ - 読んで感じたこと、思ったこと、考えたこと 読んで気づいたことや考えたこと 【主張】よりよい世界を築くには、人間が、弱い立場の人に心を寄せること、そして、何が大切なのか、何が正しいのか、どういう未来にしたいのかを考え、行動することが重要。 ・キーワードは、「考える」「どうすればよいか」「行動」。 ・中満さんにとって「考える」とは。 【友達との伝え合い活動】 ※ものの見方・考え方を広げるよう意識する。 次の時間は、三つの文章を読んで気づいたことや感じたこと、考えたことを友達と伝え合う。

第2次

第5時

本時の
目標

三つの文章を読み、友達と伝え合うことを通して、自分にとって「考える」とはどういうことか、自分の考えを深めることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 本時のめあてを設定する。 2 三つの文章を比較して読み、気づいたことや感じたことを友達と伝え合う。 3 「考える」ということについて、改めて自分の考えを書く。 4 自分の考えを深めることができたか振り返る。 5 次時の学習活動を確認する。	学習計画を基に「学習のめあて」を立てましょう。 三つの文章を改めて比較しながら読みましょう。 ○何のために三つの文章を比較するのか、その目的を明確にする。 自分が伝えたいことを明確にして、友達と伝え合いをしましょう。 ○伝え合うためには、伝えたいことが明確になっているか確認することが重要である。 伝え合ったことを基に、「考える」ということについて、改めて自分の考えを書きましょう。 「考える」ということについて、自分の考えを深めることができたか振り返りましょう。 ○「深まり」のポイントを具体的に確認する。 例：変化、新たな発見など 次の時間は何をしますか。 ○学習計画を基に児童へ問いかける。	学習のめあて 三つの文章を読み、友達と伝え合うことを通して、自分にとって「考える」とはどういうことか、自分の考えを深めよう。 比較の観点 ※問いをもちながら比較する。 ※比べると何が分かりやすくなるのか？ ①それぞれの筆者は、「考える」ことをどのようにとらえているのか？ ②読者に自分の考えを伝えるための工夫は？ →自分の考えをもって伝え合う ・何を友達に伝えたいのか明確にして。 自分の考えを書くポイント ①最も伝えたいことを分かりやすく。 ②自分の経験や知識と重ね合わせながら。 ③事例を挙げて具体的に。 ※第一時に書いた文章と今回書いた文章との比較。 深まりのポイント ・変化（ものの見方、考え方や表現等）があったか。 ・新たな発見があったか。 次の時間は、単元のふり返しをする。 ・どんな学びができたか ・どんな力がついたか

第3次

第6時

本時の
目標

単元を通した振り返りをし、自ら学びの価値づけをすることが出来る。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 本時のめあてを設定する。 2 前時の伝え合い活動を通して考えの変化や深まりを書き、友達と交流する。 3 単元を通した学習の振り返りをする。 4 今回の学びをどのようにかしていきたいか、考えを書く。 5 本時を振り返り、交流する。	単元を通して学習してきたことを振り返りましょう。 伝え合いの活動を振り返りましょう。考えが変化したことや深まったことを書き、友達と交流しましょう。 ○ 伝え合うことで何がよかったのか、ということを具体的に実感させることが重要である。 単元を通した学習の振り返りをし、自分の学びの価値づけをしましょう。 ○ どんな活動を通して、「どのようなことを学んだか」「どのような力がついたか」という振り返りの視点をもたせることが重要である。 ○ 伝え合うことの価値や、複数の文章を読み比較することの価値、筆者の主張を基にした表現の工夫などを振り返りの観点として、学びを価値づける。 この先、どんな学びや力をいかしていききたいと思いますか。 今日の学習を振り返って交流しましょう。	学習のめあて 単元の学習を通して、「どのようなことを学んだか」「どのような力がついたか」を振り返ろう。 伝え合いの活動 ・ 交流することで、新たな発見があった。 ・ 自分には気づけなかったことに気づくことができた。 ・ ものの見方、考え方が広がった。 単元を通した振り返り ↓学んだこと・ついた力 ・ 「考える」という共通のテーマでも、人によってとらえ方も表現のしかたがちがう。 ・ 伝え合うことで、新たな発見がある。 ・ 伝え合う活動では自分の考えをもっておくことが大切。 ・ 論理的な文章を読むときの視点 ・ 筆者の主張 ・ 段落と段落の関係 ・ 文と文の関係 ・ 筆者の論の展開 学びをつなげる ・ 論理的な文章を読むときのポイントや視点 ・ 伝え合いの進め方 ・ 比べることで特徴をとらえる考え方 ・ 深く考えること（いろいろな視点で関係をとらえる）

確かな学力の育成ポイント

児童の確かな学力を育成し、系統的で体系的な指導を実現するためには、育成すべき力を目標として明確にしたうえで単元構想をしなければならない。

学習指導要領の内容から本単元に大きく関わる指導事項は、次の四点である。

〔知識及び技能〕（１）

（オ）思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

（カ）文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕「Ｃ読むこと」（１）

（オ）文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

（カ）文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

これらの指導事項から単元の目標を設定し、説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動（「Ｃ読むこと」（２）（ア）に示されている言語活動）を通して目標を達成することが重要なのである。

論理的な文章を対象とする授業構想のポイント

〔本単元構想のポイント〕

二つ目のポイントは、学習者が常に自ら課題解決の観点から必然性のある問いを立て、学習活動の意味を自覚しながら学習を進めることができるようにすることである。

具体的には、常に「なぜ筆者は、——？」という問いを意識させるとよい。そうすることで、自らの問いをもたせ、主体的な学びの実現につながるからである。

二つ目のポイントは、小グループで自分の考えを根拠を基に筋道立てて分かりやすく伝える活動を重視することである。「説明する」という活動は、思考力・判断力・表現力を磨くうえで極めて有効な学習活動だからである。

〔学習計画を児童と共に立てることの価値〕

課題解決力を育成するうえで、見通しと必然性をもった学習を進めることは極めて重要なことである。教科書から学習のゴールを確認し、必要な学習活動をこれまでの学習経験から引き出すことで、児童と共に学習計画を立てることが可能となる。常に指導者の指示に従う学習では、主体的な課題解決力を磨くことはできない。学習者の疑問や課題意識を指導者がうまく引き出すことが重要である。

〔論理的な文章を読むときの視点を身につけることの価値〕

「読解はなぜ必要なのか」という問いを立てることが重要である。筆者の主張を基に、目的に応じた表現などの工

夫を捉え、主体的な読者として対象とする文章を評価することが求められる。そのためには、どこに何がどのような関係で書かれているのか、正確に読み取る基本的読解力が必然として求められるのである。正しく読み取るだけでは不十分なのである。

論理的な文章を読むときには、次のような視点を意識しながら読み、評価したり、自分の考えをもったりできる汎用的な読みの能力を育成しなければならない。

- ・筆者の主張は
 - ・筆者は、何のためにどのような工夫をしているのか
 - ・表現面での工夫（指示語、接続語、文末表現等）
 - ・内容の取り上げ方（なぜこのことを取り上げたのか等）
 - ・文章全体の組み立て方（段落相互の関係、組み立ての順序、初め・中・終わり等）
- 筆者の立場から対象とする文章を読むことは、筆者の意図を捉えることにつながり、自らの論理的な思考力・判断力・表現力を磨くことになるのである。

【汎用的な能力を育成することの価値】

単に基本的な読解にとどまったり、形式的な伝え合いにとどまったりするのではなく、物事の本質を常に見ようとすることで、汎用的な能力を見極めた教育が可能となる。